

八社参り①

八日市場を歩く

JR八日市場駅前の「匝^{むら}りの里」で「八社参り」のパンフレットを手に入れ、八重垣神社をはじめ市の中心部にまつられる八つの神社をお参りする「短路コース」を巡りました。

最初にお参りしたのが、横町区の「北面道祖神^{ほくめんどうそじん}」です。案内板には、江戸時代の銚子街道の一つの道祖神で横町の鎮守でもあり、明治30（1897）年ごろに横町、本町

出羽宿の賛同者により石造りの鳥居、石祠（石の宮）を祀り「道陸神^{みちりくじん}」として建造された、と書かれています。

市内で50か所ほど確認されている道祖神のうち、この横町区の道祖神のように北向きのもはまれで、「イボ神様」のご利益も紹介されています。江戸時代の1778年の記録に「八日市場 本町、出羽町、横町、田町、門前（現在の万町^{よろず}）、新田町（現在の仲町）、しめて6町」とあり、これらの町内は1669年時点ですでに存在していました。翌1779年の文書には、「籠部田村、富谷村、門前、八日市場本町、同新田町、米倉村、これ一つづきにて一里（約3・9km）ばかり町並なり」とあって、これが銚子街

道だったのでしよう。次にお参りしたのが、下出羽区の「村山稻荷神社」です。所在地が「願心坊^{がんしんぼう}」という寺跡を思わせる地名で、隣接して日蓮宗・本立寺^{ほんりつじ}があり、何らかの関わりがあったのかも知れません。

ここを訪れてまず目に入るのが、朱塗りの鳥居です。鳥居に使われる朱は、燃える火や沈む太陽などを表すとされ、古くから魔除けに使われた色とも言われています。数えるに10基ほどが連なり、年度ごとに神社の当役一同が奉納し、幟^{のぼり}も多く見られ、厚い信仰が根付いていると感じられます。「正一位 村山稻荷大明神」と石碑に刻まれています。が、「村山」が何を意味するのか、長い間の疑問が解けないのが残念です。

続いて仲町の「八幡大神」をお参りしました。手洗石の奉納は1851年で、神社も江戸時代後期にはまつられていたようで、境内には「御嶽^{おんたけ}神社」も併せてあります。

八社参りは次回へ続きます。
（市文化財審議会委員・依知川雅一）

問 秘書課広報広聴班

☎73・0080



横町区の鎮守・北面道祖神